

次号予告

特集 脳卒中

脳卒中のための下肢装具……………兵庫リハビリセンター 山下 隆昭・他
 脳卒中者の心理・社会的予後……………都心障センター 白井 俊子・他
 老人片麻痺患者への手工芸の適用……………至誠ホーム 河 本 のぞみ
 片麻痺のためのファンリテーションテクニク

(PNF を中心に)……………埼玉県障害センター 今 井 基 次
 とびら 重度・重複障害児に希望を……………神奈川県立ゆうかり園 大 内 二 男
 講座 痛みの生理学 2. 解剖学的な痛みの受容 ……横浜市立大学 楠 豊 和
 プロGRESS 脳性麻痺の早期発見・

療育の現状と今後の展望……………東京都北療育園 中 島 雅之輔
 リハビリテーション・日本障害者リハビリテーション研究会 池 田 昂
 インフォメーション……………日本障害者リハビリ研究会

日本アビリティーズ協会……………日本アビリティーズ協会
 あんてな リハビリテーション専門医・認定医の今後……………帝京大学 岩 倉 博 光
 第7回「理学療法と作業療法」賞・受賞論文

<奨励賞> 老人における作業活動の意義

(その効果と限界)……………至誠ホーム 河 本 のぞみ

研究と報告 慢性関節リウマチ患者の日常生活動作

(外来通院について)……………広島市民病院 白川 康彦・他

編集後記

「海外事情に敏感なのは日本人の特徴」とよく云われます。「最新海外事情」とか「新西洋事情」とかいった題のついた一般書がよく売れるのも変らない日本の特徴だと云われます。常に海外(とくに欧米)のレベルに気くばりし「追いつき追い越せ」でわが国が頑張ってきた事による日本人の行動特性なのでしょう。

今回の特集「最近の国際的動向」は別にこのような事情を意識して企画したものではありません。たまたま1981年4月～6月にかけてPT, OTに関連の深い国際学会および理事会が開かれた事とわが国からの代表がかなり重要な役割りを果たした事があって、濃密かつ最新のリハビリテーション医学およびPT, OTに関する情報もたらされた事によるものです。IRMA, WCPT, WFOT 3 報告を読ませていただいて、改めてこの分野におけるわが国の位置と実力を知りました。3つの理事会とも

「もうそろそろ理事会あるいは学会を日本でひらいては」と打診があった事で奇妙に一致しています。IRMA と WFOT は斯ったそうですが、WCPTの方は、日本のPT協会長松村氏がめでたく理事になられた事と理事国に選ばれた事と、2つの快挙をとげられました。理学療法および作業療法の国際水準を引き上げていくために今後とも関係各位の奮闘を期待いたします。執筆の労をおとり下さいました今村先生他の先生方、ありがとうございました。

さて、おくれればながら「あけましておめでとうございます」。おかげさまで、最近投稿論文も多く、質も徐々に高まりを見せてきており、編集者一同心より喜んでいきます。積極的に御執筆下さる先生方も増えてきており、理学療法、作業療法も少しは向上曲線を示しつつある昨今といえましょう。よい雑誌づくりに一層励みたいと思いますので、御指導御助言よろしくおねがい致します。

(寺山 久美子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎リハビリ学院院長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ベインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
加納岩総合病院

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己
池 田 俊 雄

伊 東 元
宇都宮 初 夫

大 丸 幸 翼
金 子 翼

鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌

木 村 信 子
駒 沢 治 夫

佐 藤 智 明
嶋 田 明 子

鈴 木 昌 家
関 昌 正

高 橋 正 明
中 屋 久 隆

橋 元 隆
藤 沢 しげ子

矢 谷 令 子
山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)